

# 愛知県花き振興計画2025の概要



「花の王国あいちのパワーアップ」  
花き産業のさらなる発展と花のある暮らしの定着をめざして

## ＜本県花きを巡る状況＞

- 花き産出額は578億円（2018：切り花等543億円、花木等35億円）  
切り花等は1962年から産出額で連続日本一「花の王国あいち」

＜出典：花木等生産状況調査＞

年		2014	2015	2016	2017	2018
産出額 (億円)	合計	605	626	610	597	578
	切り花等	556	575	571	558	543
	花木等	49	51	39	39	35

- 花きの栽培面積は1,918ha（2018）＜出典：花木等生産状況調査＞
- 生産農家数は2,745戸（2018）、年々減少の傾向＜出典：花き生産実績＞
- 切り花、鉢物とも多種多様な品目が生産され、施設栽培による安定的・計画的な栽培により市場での評価は高い
- 試験研究と生産者が連携を図り、品質・生産性向上のための新技術の開発及び新品種開発を展開
- 「かがり弁白」が、ジャパンフラワーセレクションで、2018-2019切花部門「ベスト・フラワー（優秀賞）」を受賞
- 北京国際園芸博覧会への出展（2019）
- 卸売市場を中心に本県産花き（切り花類、鉢もの類）が輸出されており、輸出額は23,685千円（2019）流通コストが課題  
＜園芸農産課聞き取り＞
- あいちの花き輸出促進計画の策定

生産・技術・流通・輸出

文化

- 県民の「花の王国あいち」に対する認知度は、33.5%（2020）  
＜出典：県政世論調査＞
- 花の王国あいちサポート企業の認定は、33社（～2019）
- 大相撲名古屋場所をはじめとするスポーツシーンでの花束贈呈
- 公共施設、中部国際空港等におけるあいちの花の展示
- 花育ティーチャーの登録は、14団体51名（～2019）
- 生産者、各種団体の実施する花育教室の参加者3,369名（2019）

需要

- 2020年新型コロナウイルス感染症拡大により需要が減少し、単価の低下、出荷数量・出荷額の減少等の影響を受けた
- 1世帯当たりの切り花の年間購入額で、名古屋市は全国第35位（2020）と全国の下位、園芸用植物では全国37位  
＜出典：家計調査年報＞

## ＜主な施策の方向＞

### 花き産業の振興 ～花の王国あいちを支える～

#### ＜生産者の経営の安定＞

- 経営安定に向けた他品目への転換支援
- スマート農業技術の導入等の生産基盤整備
- 多様な担い手の営農継続支援
- 災害への備え、復旧に向けた各種助成制度の活用支援



#### ＜生産性及び品質の向上の促進＞

- 高品質な新品種の開発・導入とブランド化の推進
- 高生産・低コストの生産技術等の開発及び導入推進
- 流通施設の整備や流通体制の改善支援
- 育苗・苗供給体制の強化支援



#### ＜輸出の促進＞

- 国際園芸博覧会への出展・コンテストへの参加支援
- 輸出に適した品目生産など産地の対応強化支援



#### ＜気候変動及び環境に配慮した適応策＞

- 栽培環境改善技術の確立と導入推進

### 花きの文化の振興 ～花の王国あいちを定着させる～

#### ＜公共施設及びまちづくり等における花きの活用＞

- 「花の王国あいち」シンボルマークの活用と定着
- 公共施設や中部国際空港など主要施設における花きの装飾展示



#### ＜花きを活用した教育、地域の花き活用の推進＞

- あらゆる世代への花育の推進
- 花きを介した世代間交流を伴う地域活動支援



#### ＜日常生活における花きの活用促進＞

- 暮らしに花を取り入れる花いっぱい県民運動の展開
- 家庭や職場に日常的に花のある生活の定着推進

### 花きの需要拡大 ～花の王国あいちを拡げる～

#### ＜花きの需要を拡大する取組支援＞

- オンラインや定期契約取引等による新たな販売体制の構築支援
- ホームユース市場に対応した生産・流通の連携強化
- 住宅やインテリア業界との連携推進



#### ＜イベントにおける花きの活用促進＞

- 県民参加型の花と緑のイベントの継続的開催
- アジア競技大会等での花きのおもてなしとPR
- 各種行事や式典における会場の生花装飾等の花き活用

## 「花の王国あいち」の目標（目標年度2025年度（令和7年度））

○花き産出額 581億円（うち 切り花等 545億円、花木等 36億円）

○花き輸出金額 2億円

○花の王国あいちの認知度 50%